ふれあいハウス・ふれあいハウススピカ 事業報告

令和8年度 地域連携推進会議 議事録要約

開催日時	2026年10月21日 15:00頃開始
開催場所	当初「ふれあいハウススピカ」での開催を予定していたが、利用者のインフルエンザ罹患に伴い急きょ会場を変更して実施
参加者	碧南市役所福祉課、碧南市社会福祉協議会、民生児童委員、中山福祉の会、 グループホーム琴葉、利用者代表、利用者家族代表、ふれあいハウス関係職員 （司会：管理者　鈴木直子／サービス管理責任者／議事録担当の職員）

1. 運営方針・施設構成・日中生活

理念と支援方針

- **基本理念**：利用者が「自分の居場所」と感じ、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指す。
- **合言葉**：「みんなちがって、みんないい」。得意・不得意を含めて互いを認め合い、利用者が小さな役割を担うことで「自分はここにいてもいい」という安心感を育てることを重視している。

定員および利用状況（合計約30名規模）

- **ふれあいハウス**：定員10名（男性8名、女性2名／女性居室は扉で区分）。
- **ふれあいハウススピカ**：定員6名（女性2名、男性3名）。体調不良により2026年10月末頃に1名が別施設へ転居予定で、次の入居者もおおむね決定済み。
- **シェアハウス（2階）**：定員14名。自立に向けて支援が必要な人が生活し、ふれあい支援センターの居宅支援事業所と連携して支援を実施。

日課と日中対応・服薬管理の課題

- **基本日課**：6:30起床、朝食後に通所先（生活介護・就労支援等）へ向かうため10:00〜14:00頃は原則閉所（日中職員配置なし）。16:00頃に帰宅し、入浴・夕食・服薬管理を経て21:00頃就寝。
- **体調不良時の日中見守り**：日中にインフルエンザ等で通所できない場合、通常職員が不在のため、必要に応じてふれあい支援センターの居宅介護ヘルパーへ急きょ見守りを依頼している。
- **服薬管理**：世話人が管理を行っているが、セット方法等を工夫しても服薬ミスが繰り返し発生してしまう点が課題となっている。

2. 利用者の高齢化と制度上の課題・人材確保

本人の力を生かす支援と土日支援の限界

- **個別支援**：指示どおりに過ごすだけでなく、個別支援計画に基づき「できることは本人が行い、難しい部分を支援員が補う」ことで本人の力を最大限に生かす支援を実践。
- **土日支援の課題**：本人や家族の高齢化に伴い、土日に自宅へ帰れない利用者が増加（16名中5〜6名が帰宅不可）。ヘルパーや他事業所の職員を組み合わせて対応しているが、「現行サービスだけでは成り立たない」状況であり、行政へサービス拡充を求めたい意向が示された。

高齢化と制度の狭間（65歳の壁）

- 原則65歳までは障害福祉サービスが中心となるが、障害のある人は体力・内臓機能の低下が早い傾向にある。
- 40歳以上で特定疾病に該当しない場合、介護保険へ移行できず支援の空白や受け入れ先・費用負担の調整に苦慮する事例が発生（53歳で退所するケース等）。関係資料・行政側への意見伝達を強く要望した。

人材確保と外国人職員の受け入れ

- 支援員不足が続く中、法人としてインドネシア出身の特定技能実習生を4名受け入れ済みで、2027年にも数名の受け入れを想定。
- 言語や文化の違いはあるものの、先行導入している他施設（グループホーム琴葉）からは「2〜3か月で一定程度の習得が進む」との経験が共有された。なお、採用時の年齢上限は設けていない。

3. 事業収支・生活実費・設備更新

事業収支（4月〜8月の5か月間）

- **収入**：国保連からの自立支援給付費、利用者負担金、シェアハウス家賃・食費、市補助金などで概算約2,400万〜2,500万円。
- **収支状況**：最低賃金上昇等による人件費増に加え、隣接地購入に伴う固定資産税（約50万円）の計上により約100万円の赤字（実質感覚として約70万円の赤字）。利用者の入退院による空床期間中の給付金減少も経営負担となっている。
- **補助金**：市からグループホーム利用者1人あたり月1万円（16名で月16万円）の補助金あり。県からの補助金はなし。

生活実費と設備更新・ICT化

- **食費・光熱費・日用品費**：食費（月〜土朝）は月15,000円（土日滞在者は朝夕750円・昼600円別途徴収）。4〜8月の食費収支はほぼ均衡（収入約260万円／支出約258万円）。日用品費の余剰分は故障しやすい洗濯機（12〜13台稼働）の買い替えに充当予定。実費全体は2027年2月頃まで様子を見て改定要否を検討する。
- **設備の計画的更新**：開設14年が経過し老朽化が進行。今年度は居室エアコン4台（約60万円）・大型冷蔵庫1台を更新し、ガス給湯器の更新予算も計上。

- **ICT化の推進**：支援時間確保のため、AIレコーダーによる議事録作成、音声入力記録、請求業務の効率化を進めている。

4. 将来構想・地域連携・防災・広報

- **2棟目建築と短期入所構想**：隣接地に3年以内（2028年10月頃目安）の開設を目指し、プロジェクトチームを立ち上げ済み。緊急受け入れや家族のレスパイト支援強化のため短期入所（ショートステイ）導入も検討中（人材確保が最大課題）。
- **地域連携・広報**：役員刷新により前向きな改革が進む町内会への正式加入を検討。アパートとの誤解を防ぐため、回覧板の活用や求人チラシへの暮らしぶり・所在地掲載を検討（写真掲載時は本人意向・プライバシー確認を徹底）。法人全体でInstagram等のSNSも活用。
- **水害時BCPと防災対応**：水害指定地区への認定を受け、2026年10月末までに水害時BCPを作成・提出予定。エレベーターが無く屋外移動が危険なため、早期判断のもと施設内2階へ避難する方針。備蓄品も段階的に準備を進める。
- **施設開放・地域訓練**：年2回の施設開放を計画しており、第2回は2027年2月17日にスピカの内覧・見学（QRコードアンケート実施）を予定。地域防災訓練（10/25）やAED研修（11/1）への参加を通じ地域との関係構築を図る。

5. 主なアクションアイテム・今後の予定

トピック	タスク・取り組み内容	期限・実施時期	担当・対象
地域防災訓練	碧南中央小学校で実施される地域防災訓練への参加	2026年10月25日	施設スタッフ2名
水害時BCP	水害時を想定した事業継続計画（BCP）の作成および市への提出	2026年10月31日	作成担当者
地域訓練案内	区民館での町内会主催AED研修会・初期消火訓練への参加検討	2026年11月1日	施設側
施設開放	第2回施設開放（スピカの内覧・支援見学・QRアンケート実施）	2027年2月17日	施設側
生活実費改定	食費・光熱費・日用品費の実績確認と料金改定の要否判断	2027年2月頃	事業所・法人
人材確保	インドネシア出身・特定技能実習生の追加受け入れ計画推進	2027年想定	法人
将来構想	隣接地への2棟目建築および短期入所（ショートステイ）開設検討	2028年10月頃目安	プロジェクトチーム

【未解決の課題・継続検討事項】

1. **服薬管理**：繰り返される服薬ミスの具体的な再発防止策および担当者・実施期限の策定。
2. **土日支援・制度課題**：市へのサービス拡充要望の具体策・協議時期、および65歳未満で介護保険対象外となる利用者への支援・費用対応。
3. **生活実費改定**：2027年2月頃の料金見直しにおける具体的な判断基準と改定幅の設定。
4. **2棟目・ショートステイ**：開設に向けて必要となる支援スタッフ数の算出と採用・確保計画。
5. **水害BCP・避難運用**：2階避難時の具体的な移動手段、男女別区画・鍵の運用、夜間1人体制時の緊急連絡・応援体制、救助ボート等の備品確保。
6. **町内会・広報運用**：町内会への正式加入時期・手続き、および回覧板やSNS掲載時のプライバシー同意確認基準の整備。